

第 78 回 奈良県河川整備委員会 議事概要

日時：平成 28 年 10 月 31 日（月） 10：10～12：10

場所：経済会館 5F 大会議室

出席者：

【委員】 伊東委員、岡崎委員、川池委員、倉橋委員、河本委員、庄田委員、立川委員（委員長）、舘野委員、谷委員、藤次委員、堀野委員

【事務局】 奈良県県土マネジメント部 河川政策官ほか

議事 1. 進捗点検進捗点検（淀川水系（奈良県域）・紀の川水系（吉野川））について
2. 環境モニタリング調査結果について（中間報告）

質疑応答：

1.1 進捗点検進捗点検（淀川水系（奈良県域））について

【治水】

舘野委員・ 宇陀川の護岸について、石積護岸とすることで城下町の優れた景観に配慮
立川委員長 するとあるが、本当に歴史に配慮するならば、江戸時代らしい積み方があるのでは。山田川との違いが分かりにくい。

事務局 洪水時の川の勢いに耐えられるような強度が必要であり、山田川のようにコンクリート護岸とすることも考えられる中で、少しでも環境的に配慮することとし石を使用している。歴史的復元ではない。

石積は、表面に自然石が見えるが、護岸として強度が必要であることから、裏面にコンクリートを使用し、さらに、形の整った間知の石を用いて積んでいることから、ご指摘のとおり、コンクリート護岸と大きな違いがないように見えている。

石を使用することで、黒ずみ、次第に周囲に馴染んでくると考えている。

河本委員 どの部分が石積護岸かよく分からない。

事務局 宇陀川は可能な限り石積みを採用している。山田川は、環境ブロックを使用している。

舘野委員 事業区間の中間付近に架かっていた橋は、この事業の中で作られたものか。この事業で作られたものであれば、歴史に配慮し、木製あるいは木造の橋にしたほうがよいのでは。

- 事務局 整備前から存在する橋梁である。木製の橋は、維持管理の観点から現実的に難しい。今後、橋の整備にあたっては、少しでも歴史に配慮していきたい。
- 河本委員 城下町の優れた景観に配慮、親水空間の創出とあるが、整備にあたってどの程度、地元と協議を行っているのか。
- 事務局 河川整備計画を策定時に、地域の方にご意見を頂いている。
現在も橋の架け替え等の工事にあたっては、地元の説明し、理解を得ながら実施している。
整備委員会策定時は、地元の自治会長や水利組合の方、付近で活動されている方等、現在の工事に関しては、地元自治会を対象としている。
- 谷委員 ゲンジボタルのサナギは、陸域で生息する。現状の植生が繁茂した中州がサナギの生息環境となっている。ホタルが水域と陸域を移動できるように、治水との関係もあるが、ホタルに配慮した工事はできないか。
- 事務局 事務所と相談して、ホタルに配慮した工法等の導入を検討していきたい。
- 館野委員 資料の中身が進捗点検結果ではなく、計画論的な記載がされている。
自己点検として、していると記載すべきでは。
- 事務局 整備計画に配慮するという表現があり、現在事業途中であることから、努めていると記載している。ご指摘を踏まえ、表現を検討していく。
- 立川委員長 貴重な意見を5年後の進捗点検にも活かしていくために、どんな議論をされていたのか分かるようにしてほしい。

【住民連携】

- 立川委員長 参加人数が記載されているが、今後どのようにアクションしていくのか。
- 事務局 住民の皆さんと一緒に管理をやっていただくような形を伸ばしていきたいが、現状では困難であり、何とか現状を維持していきたいと考えている。
- 河本委員 高齢者の草刈り等、難しい点もあるが、活動を持続させるためには、いかに楽しくするのが重要である。そのためには、例えば、大学生とおじいちゃんやおばあちゃんと草刈りを一緒に行うことで達成感が得られるなど、教育活動と自治会による活動の合わせ技が必要と考えられる。
- 河本委員 リバーウォッチングの内容をより深めていくためには、毎回の成果を記録しておいて、同じ場所でリバーウォッチングを実施されることで、ビフォーアフターで比較ができるようになると、より学習効果が増すと思われる。ぜひ、定点観測を推奨するというのを入れていただきたい。
- 谷委員 リバーウォッチングの成果は、毎年記録を残したり、ホームページで公表している。全ての記録が残っていると思われる。

- 岡崎委員 リバーウォッチングといった取り組みはすぐには効果が出ないが、有効であると思われる。ぜひこのような取り組みを継続していただき、ホームページ等で情報発信を行い、県も活動を支援していることを周知してほしい。
- 堀野委員 草刈りと除草の2つの言葉の使い分けられている意味は。
- 事務局 定義として明確な違いはないが、事業の運用上の用語を記載している。
- 倉橋委員 リバーウォッチングは、毎年同じ小学校に行っているが、偏りがないようにするため、どのような工夫を実施しているのか。
参加人数が非常に少ないが、参加人数をどのように決めているのか。
- 事務局 ホームページで公募をしており、応募があった学校が対象となっている。川に入るといいますので、3、4年生を大体対象としており、人数は、学校に任せている。大和川流域では100人近く出ていただくこともある。
- 谷委員 リバーウォッチングの講師として20年以上関わっているが、近傍に河川がある学校が対象となる場合が多く、総合学習ということで3年生とか4年生が多い。

【防災】

- 堀野委員 水位等の観測では、宇陀川、町並川、山田川以外の整備計画対象外の河川が含まれているが。
- 事務局 整備対象河川は3河川であるが、整備計画としては、淀川圏域全体を対象としていることから、住民連携と同様に圏域全体の情報を記載している。
- 河本委員 アラームメールの登録者は、高齢の方が多いと思うが、子供たちにアラームメールの存在を知ってもらうことによって、その保護者が登録をするのではないか。
- 事務局 アラームメールは、携帯電話をお持ちの方に登録していただくことから、大人が対象となる。出前講座でチラシを配布して普及・啓発に努めている。
- 河本委員 奈良県では、ハザードマップの学習が進んでいないように感じる。ハザードマップは全戸に配布されているが、活用されていないのでは。
- 事務局 市町村がハザードマップを作成し、全戸配布している、市町村や県の出前講座でマップの周知を行っている。
- 立川委員長 進捗点検の中には、県職員が実施している出前講座は含まれないのか。
- 事務局 年何十回も出前講座を行っているわけではないことから、点検項目としていない。把握できる範囲で調査し、記載に向けて検討していく。

1.2 進捗点検進捗点検（紀の川水系（吉野川））について

【住民連携】

- 立川委員長 川の清掃にトヨタ自動車不参加となった理由は。
- 事務局 今年には町から企業の参加がなかったと回答を受けている。
- 谷委員 トヨタ自動車としては、参加する予定であったが、吉野町のほうから断られ、無くなったと聞いている。
- 立川委員長 出来る限り企業との連携を深めていくべきである。
- 河本委員 愛護団体がたくさんあるが、それぞれの愛護団体での工夫やおもしろいことをやっている等はあるか。
- 事務局 清掃と草刈りが主で面白いというものではないと認識している。数は少ないが、花を植えていただく活動への支援もある。
- 河本委員 環境管理の活動というのは、褒めてあげるとか、紹介してあげるといったのがモチベーションにつながるのでは。
- 立川委員長 県から感謝状を贈るのもよいのでは。
- 事務局 感謝状の贈呈は行っておらず、参加団体をホームページで公表している。多くの企業に参加していただくため、商工会議所で多くのビラを配布し参加を募っている。
- 河本委員 どんな工夫をされているのか、どんな点で困難に直面しているかをデータベースで管理することで、他地域での今後の活動の持続に向けたヒントに繋がるのでは。

【防災】

- 河本委員 和歌山県と連携した取り組みはあるのか。
- 事務局 和歌山県のデータは記載していないが、五條市の途中から国管理河川になっており、国が洪水予報システムを導入して、気象庁と国土交通省が合同で雨量と水位を予測しており、その予測状況が県や市に公表されている。和歌山では、管理河川の水位の周知を行っているが、あくまでも地域的なものとなっている。県管理区間の整備計画であり、その範囲に限って記載している。
- 河本委員 防災訓練の写真を見ると、若い人の参加が少ないように見受けられるが、若い人に関心を持ってもらうための仕掛けというのは考えているか。
- 事務局 以前は、高齢者の自治会長が中心に実施することが多かったが、最近の危機意識の高まりにより、親子連れ等、若い世代の参加も多くなっている。

県の総合防災訓練は一般の見学もできるので、家族も来ている。

- 川池委員 平成 27 年に吉野町で広範囲で防災訓練が実施されているが、継続的な取り組みとはならないのか。また、地域や自治体ごとで温度差や特徴があるか。
- 事務局 平成 23 年の紀伊半島大水害で被災を受けたことで、関心が高まり、防災訓練等に取り組まれていることが多くなったと聞いている。
吉野町では平成 27 年に集中的に防災訓練が実施したと聞いているが、継続されているかどうかは、今後また調査をしていきたいと考えている。
- 伊東委員 水防団待機水位に到達すると、どのような団体がどのような活動を実施するのか。
- 事務局 奈良県内は全て消防団が兼ねており、一定の水位になると県から発令し、市町村から消防団に知らせられ、水防活動の待機という状態になる。また、氾濫注意水位になると出動し、川の巡視や水防活動が開始される。
- 河本委員 防災訓練やリバーウォッチング、河川愛護活動等について、過去がどうだったのか把握できない。できれば、今後、経年変化を追加してほしい。
- 谷委員 曜日によっては、若い人が仕事に行っている等で参加できないことも考えられることから、防災訓練の実施時期に曜日追加してほしい。

【全般】

- 立川委員長 進捗点検の内容として、自己点検ということで奈良県としてどうしたいかを記載すればよいのでは。
例えば、住民連携では、高齢化が進んでいるので、このままであれば継続が難しいだろうと、その上で商工会議所に働きかけて何らかのアクションを既に起こしている等このような形で、県としても現状を見て、これはどう判断していると記載してはどうか。
河本委員から指摘いただいた、過去の履歴も非常に大事であることから、資料に過去の履歴を追加してはどうか。
- 舘野委員 表中の記載内容の日付の並びを統一しておいたほうが良い。

質疑応答：

2. 環境モニタリング調査結果について（中間報告）

岡崎委員 植物調査や植生調査が秋に実施することとなっているが、春季から夏季にかけて調査を実施すべき。特に、植物調査は植物が豊かな時期に実施すべき。

また、絶滅危惧種が確認されれば場合は、標本に残す形で結果を整理してほしい。

事務局 業務契約上難しいが、来年以降は工夫していきたい。

谷委員 奈良県のレッドデータは来年度には更新される予定である。かなり絶滅危惧種も増えており、一回内容を確認して頂きたい。

以上